

# 西光寺だより

第一〇〇号 平成三〇年十二月一日発行

## 祝 西光寺だより第一〇〇号達成！

平成二十二年九月一日から約八年、様々な内容を通して、少しでも皆さんとお寺とのつながりができますよう、そして浄土真宗のこと、お寺の行事や法要を身近に感じていただけたらと思いつつ日々でありました。皆様のおかげによりこうして続けることができましたこと、深く感謝申し上げます。今年には色々ありました。本当に災害の年でありました。西光寺におきましては十一月の報恩講でも講長よりお話しがありましたように、なんとか見える箇所は修理することができました。皆様のお家も大変な時に、総代様はじめ、皆さんのお心づかいを頂き、そして貴重な講金から捻出することができ、感謝の思い一杯でございます。

災害という人間の力では計り知れない自然の猛威を感じ、私たちのいのちのありようもどうなるかわからない自然の力と同じように感じることでありました。どうなるかわからない世界にいるからこそ、自然の美しさを感じることもでき、またいのちの尊さを学ぶ瞬間であるといえます。常に無い、無常の理（ことわり）を知るとき、『必ず救う・だから安心しておくれ』といつでも見て下さっている仏さまの存在の大きさに気づくことであります。だからこそこうして普通の生活が知らず知らずのうちに大きな安心の中に包まれながら送れているのだと感じることであります。

来年は新しい年号になり、西光寺だより一〇一号の新しいスタートの年がはじまります。心機一転、今まで以上に皆様方と寄り添いながら少しでもお寺のこと、事実を伝えながら住職自らの言葉・考えを載せながら進んでいけたらと思うことであります。どうぞよろしくお願いいたします。

そして皆様どうぞ良いお年をお迎え下さい。

合 掌

## ● 今月のことば ●

### 【お花をお供えする理由】

先月号でお仏飯のお話を載せました。そこでお花についてもご質問がありましたのでお話しさせていただきましたと思います。

仏前にお供えする花を仏華や供華と言います。浄土真宗では草花や樹枝を花瓶に挿しますが、他宗では紙・木・金などで造った造花を使うところもあるようです。お花を供える意味として『百通切紙』に

①一義に九十箇条を引いて華一度切りたれば命切れたる如し。しかれども少しの水に養われて生木の如くなり。我等生まれたるは死の始めなれば、早死すべきなれ共、無常の使の来る迄は儚き命永らえる体を思うて、愈々無常を知れとの催促なり。

②今一義に、仏前の莊嚴によりて、信心を発す。生華によりて殊勝に存じ、『小経』の七重宝樹、『大経』の七宝諸樹を思い出して欣求（こんぐ）の心強くおこすべし。

①花が水を吸いながら命を保つ姿・枯れてゆく花の姿を通して自分自身のいのちに重ね合わせ、無常を知ることでもあります。

②仏前をお莊嚴している仏華を通して、お浄土に咲き誇る花々に思いを寄せ、お浄土へのようすを強く思うことを説いています。

なので花を通していのちのありようを感じるのだから向きに置きます。そして造花ではなく生花を用いる事によりいのちの無常を知り、お花を活け替える事で仏さまにお参りするご縁となるように味わいたいものであります。

## ◆ 先月の報告 ◆

①十一月二十三日（金・祝）、西光寺本堂にて報恩講法要を厳修致しました。近隣のお寺さんと共に、多くのご門徒の皆さんと、午後二時から奉讃大師作法、七時から正信偈のお勤めをし、声高らかにお勤めさせていただきました。

そして、皆様で和氣秀剛師のご法話を聴聞致しました。スライドを用いながら御伝鈔の説明をしていただき、わかりやすく楽しく聴聞させていただきました。ありがとうございました。



浄土真宗本願寺派 永應寺参拝

②十一月二十八日（水）茨木東組門徒総代会研修会が行われ、西光寺からは四名の総代様が参加致しました。赤穂義士ゆかりの永應寺を参拝し、地元のかき料理をいただき、研修と親睦を兼ねた日帰り研修を行いました。



色とりどりの衣で、皆様とお勤めました。



総代様四人で。



スライドで御伝鈔を解説。

◆十二月・一月の行事◆

・十二月 十日（月）～十一日（火）

茨木東組念仏奉仕団

京都西本願寺

・十二月 三十一日（月）

除夜の鐘

午後十一時五〇分頃より

西光寺鐘楼

・一月 一日（火）

元旦会

午前十時～（正信偈）

西光寺本堂

※一月のお逮夜参りは**四日（金）**からです。

日の変更は西光寺までよろしくお願い致します。

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>